主権者としての自覚を持たせる授業の工夫
～“よりよい社会”を主体的に語るために～

指定校１年次　根羽村立根羽中学校　柳澤 知奈

Ⅰ　本校の実態

本校は小規模校だからこそ、よく言えば目が届き、逆に言えば手が入りすぎて主体性を奪いがち。大人の意見を鵜呑みにしやすい生徒に、主体的な主権者になってほしいという願いを込め、本年度から NIE 研究指定校となることを引き受けた。新聞は授業と現実社会をつなぐ便利なツールなので、本年度はとにかく新聞に触れる機会を増やすよう心がけた。実証授業は７月（詳細は割愛）と１１月（後述）に行ったが、力をつけたのはたった２回の実践授業ではなく、新聞コーナーの整備や新聞タイムといった日頃の取り組みだと考えられる。この報告書では、授業実践以外の取り組みから記述する。

Ⅱ　実践授業以外の取り組み

１　新聞コーナー（生徒会活動・通年）

- 昔からずっと続いている。どこの新聞を取るかは毎年委員会で決めている。
- 朝、生活文化委員が当番活動で職員室へ新聞を取りに来て、新聞コーナーへ並べる。
- 生徒は休み時間に自由に閲覧できる。歯磨きをしながら見るのが人気。
- 授業で扱った内容に関係する記事を見つけたら付箋を貼り、「○年生！見てね」と書いておく。
- 学年を問わず楽しめる記事や広告があったら、あえて開いたまま置いてある。
- ８月までは、信濃毎日、朝日・読売の各中高生新聞を購読。
- 町場から通勤している職員が、産経、読売、朝日、日経を買ってきてくれることもあり、時々並んだ。６月は「組織犯罪処罰法改正」について、６紙を並べて比較できるように整えた。
- ９～１２月は信濃毎日、朝日、中日、毎日、日経、読売の６紙を読ませていただけるようになった。
- 新聞を開いてゆったり見ることができるよう、新聞コーナーを拡張。廊下の両側に配置。

２　キャリア教育での活用（２年総合・６月）

- 職場体験の前に「働く」とはどういうことか考え、そのヒントを得るために新聞記事を活用。
- ３人のインタビュー記事を参考に、自分の考えをまとめた。

３　新聞記事の読み比べの授業（２・３年国語科・６月）

- ２、３年合同授業として特設単元の授業を行った。
- 新聞記事のつくり（見出し・リード文・本文・キャプション）について学んだ。
- 桜の開花について報じている２つの新聞記事を読んで相違点を整理。
- 同じことについての記事なのに報じ方が違うのは、書き手の主観が入るからだと学んだ。

４　夏休みの課題で新聞づくり（１・２年社会科・７月）

- １年はテーマ史新聞づくり。自分で一つテーマを決めて情報を集めて年表を作り、新聞にまとめる。２年は国新聞づくり。自分で一か国決めて情報を集め、新聞にまとめる。
- 情報収集のツール（教科書・図書館・新聞・ネット等）の選択肢を広げ、それぞれの特徴を知る。特に情報の信頼性についてはたびたび触れている。
- 引用の仕方や出典の書き方等、著作権についても触れている。
- 今年度から情報収集シートと構成シートを作って配布したところ、生徒にはかなり好評だった。

５　夏休みの課題「税の作文」を書くために（３年社会科・７月）

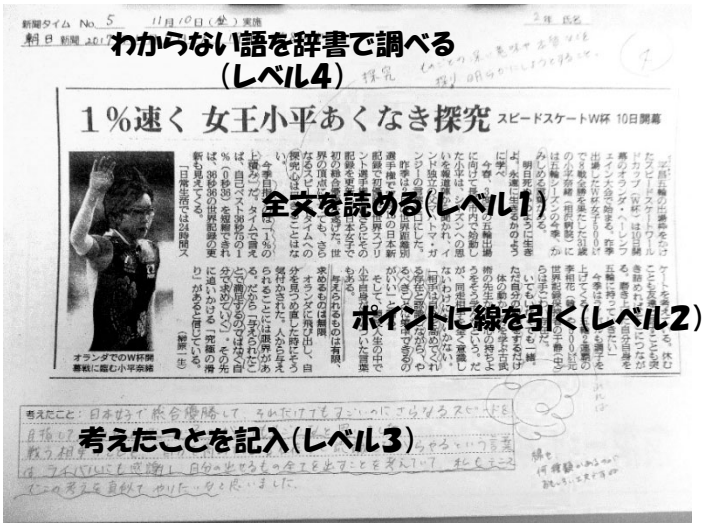
- 税の作文のために、単元を入れ替えて３年の７月に財政の授業を行っている。
- 作文がただの思いつきにならないよう、新聞を根拠として使えないかと授業を仕組んだ。
- 難しい記事も読めるようになるには、新聞に多く触れ、たくさん読むことが必要とわかった。

６　「みんなのコメント」コーナーを設置（９月～）

・新聞コーナーに付箋と鉛筆を置き、新聞を読んだ感想を書き、貼っておけるようにした。
・共感コメントが寄せられ、新聞を読むきっかけにもなっている。若手職員も書いてくれる。
・寄せられたコメントは紙に貼り替え、ファイリングして誰でも見られるようにしてある。

７　「新聞タイム」の導入（全校・10 月～）

・朝読書が週に複数回あるときの最後の一回を「新聞タイム」にさせてもらった。
・NIE 担当職員が選んだ記事を全校で読む。１０分間のタイムトライアル。レベル１～４まであり、個々の力量に応じて到達点が異なる。
・導入で「中３ 読解力ピンチ」（読売 2017.9.23(土)32 面）の記事を読み、今のうちに読解力を高める必要性を感じてもらった。
・記事の分野が偏らず、どの学年も読めるような記事選びを心がけている。



・わからなかったら辞書を引くということが、他の場面でも当たり前のようにできてきている。
・今年度の成果と課題を年度末に振り返り、担当以外の職員や生徒にも記事を選んでもらったり、感想を書くだけでなく読み取りシートのような形式にしたりするなど、来年度の方針を考える。

８　３分トライアル（３年社会科・10 月～）

・定期テストが時間内に終わらなかった３年生のために、読む速度を速くしてもらおうと導入。
・公民の授業の最初の３分で記事を読む。新聞タイムとは異なり、読むだけ。
・授業に関わる記事を選び、学習内容と現実社会のつながりが感じられるよう配慮した。
・ただし、政治分野は言葉が難しすぎて解説が必要になり、３分では収まらず授業が破綻することもしばしばあった。
・毎日新聞の「なるほドリ」のコーナーや、読売新聞の「にゃるほど！社会保障」などの、解説系記事が読みやすくて生徒の反応も良い。
・もっとも反応が悪かったのは社説。背景を知らないと読めない。独特な言い回しや略語が難しすぎる。２人で１０分程かければ生徒の力でも読むことができた。詳しくは授業実践で。

Ⅲ　授業実践

社会科（公民的分野）指導案 日　時　　平成２９年１１月１３日（月）　第３校時 授業学級　３年　（男子２名　女子５名　計７名） 指導者　　南信教育事務所 学校教育課 指導主事 松澤和憲先生 授業者　　柳澤　知奈

１　単元名　　「　私がやらなきゃ誰がやる！　私たちのための民主政治　」

２　単元の目標

（１）主目標

民主政治の仕組みはすべて民意が反映されるよう工夫されていることを理解し、だからこそ、民主政治を成り立たせるには国民が権利を行使し、主権者として主体的に政治へ参画することが不可欠であるということに気づき、民主政治を発展させようとする意欲や態度を養うことができる。

（2）単元の具体目標

A【社会的事象への関心・意欲・態度】

人権を尊重し、自由と権利を保障する民主政治を守り発展させようとする意欲と態度を養う。

B【社会的な思考・判断・表現】

資料や話し合いを通して複数の考えやデータを比較・関連・統合させて、民主政治の意義や課題について考え、それを表現することができる。

C【資料活用の技能】

図・グラフや新聞記事など、民主政治についての様々な資料から、民主政治の意義や課題について考えるうえで必要な資料を適切に選択し活用しながら、必要な情報を読み取ったり、収集したりすることができる。

D【社会的事象についての知識・理解】

ア　民主政治の仕組みのあらましを理解できる。

イ　国民の積極的な政治参加により民主政治を推進することが大切であることを理解できる。

3　単元展開　　（本時：全１１時間中　8時間目）

学習活動	学習問題・予想される生徒の反応	支援・指導【評価】	資料	時
○憲法の学習をふまえ、国民主権はどうやったら可能なのか考える。	民主政治を成り立たせるには、何が必要なのだろう？ ・国会　・内閣　・選挙　・民主主義 ・うーん、他にもあるのかな？ ・日本は議会制民主主義で民意を政治に反映させているんだね。	・前単元（憲法）の国民主権の学習を踏まえて問いかける。 ・直接/間接民主制について扱う。 【D-ア】		1
○政党の役割を理解する。	政党は民主政治においてどんな役割を持っているだろう？ ・政党は主張が同じ人の組織だね。 ・公約を示して人々の合意を得るんだ ・議会制民主主義に欠かせないね。	・先日の衆議院議員選挙に触れつつ、政党の役割を考えられるようにする。 【C、D - ア】	・選挙公報等の新聞記事	2
○選挙制度を理解する。	国の選挙は民主政治を成り立たせるためにどんな工夫がされているだろう？ ・４つの原則で民意を出しやすくしているんだね。 ・小選挙区比例代表並立制にすることで多くの民意が反映できるんだね。 ・一票の格差を是正することで、より平等になるといいね。	・先日の総選挙に触れつつ考えられるようにする。 ・明治時代の衆院選と比べて４つの原則を押さえたうえで、一票の格差の問題を考える。 【C、D - ア】	・選挙翌日の新聞記事 ・一票の格差の新聞記事	3
○国会の役割としくみを理解する。	国会は民主政治を成り立たせるためにどんな工夫がされているだろう？ ・国権の最高機関としてたくさんの役割を持っているんだね。 ・衆議院の優越によって、より民意を反映した立法ができるんだね。	・国会の役割は端的におさえ、衆議院の優越の意義について考えられるようにする。 【B、D - ア】	図で ・国会の役割 ・衆参の違い ・衆議院の優越	4
○国会が抱える課題を理解する。	国会はどんな課題を抱えているのだろう？ ・議員立法が少ないということは、民	・国会の仕組みのあらましは端的におさえ、議員立法成立の少なさについ	図で ・法律ができる	5

	意が直接反映されていないんだね。 ・多数決の原理は少数意見の尊重が前提で、多様な民意を反映させることが大切なんだね。	て、何が課題なのか考えられるようにする。 【B、C】	・国会の種類 ・成立数のグラフ	
○内閣の役割と仕組みを理解する。	内閣は民主政治を成り立たせるためにどんな工夫がされているだろう？ ・内閣は行政機関のトップとして責任を負っているんだ。 ・国務大臣の過半数は国会議員で、他は国会議員でなくてもいいんだね。 ・議院内閣制なんだ。 ・内閣は国会に連帯して責任を負うことで、民意を反映しているんだね。	・内閣の役割や主な仕事は端的におさえ、議院内閣制の内容を扱ったり意義について十分に考えたりできるようにする。 【C、D - ア】	図で ・内閣の主な仕事 ・議員内閣制のしくみ	6
○行政が抱える課題を理解する。	行政はどんな課題を抱えているのだろう？ ・官僚が主導していると選挙をしても行政に変化が出ないね。 ・行政改革や規制緩和で行政権の拡大を防げると国民の自由が保てるね。	・現在の主な行政機関は図を示す。 ・行政改革を行う意味を考えることで、行政の課題への理解につなげる。 【B、C】	・主な行政機関の図 ・規制緩和の新聞記事	7
○マスメディアの役割を理解する。	マスメディアは民主政治に対してどんな役割を果たしていると思う？ ・新聞を読み比べたら、自分と同じ考えも違う考えもあったよ。 ・新しい問題に気付けたね。 ・マスメディアがあることで、私たちは情報を手に入れたり視野を広げたりできるんだね。	・同じ話題の複数紙を読み比べることで、情報を比較・関連させて考えやすくする。 ・新内閣を扱い、既習事項を生かして考えさせる。 【B、D-ア】	・新内閣についての３社の社説	８・本時
○裁判の役割を理解する。	裁判は民主政治を成り立たせるためにどんな工夫がされているだろう？ ・民事裁判と刑事裁判があるんだ。 ・裁判官、弁護士、検察官といろいろな人が関わっているんだね。 ・人権を守るために裁判があるんだ。 ・裁判によって社会の秩序が維持されているんだね。	・民事/刑事裁判の違いと、三審制のしくみは図で端的におさえる。 ・司法権の独立の意義を考える。 【B、D-ア】	図で ・民事/刑事裁判のしくみ ・三審制 ・裁判所のちがい	9
○裁判が抱える課題を理解する。	裁判はどんな課題を抱えているのだろう？ ・自分が裁判員で人を裁くって荷が重いなぁ。 ・でも民意を反映させた裁判にするために取り入れられたんだ。	・裁判員制度のしくみのあらましは端的におさえ、それが導入された理由と課題を考えられるようにする。 【B、C】	・裁判員制度のしくみ	10

○三権分立を理解し、民主政治を成り立たせるのに必要なものに気づく。	民主政治を成り立たせるには、何が必要なのだろう？ ・三権分立によって権力の行きすぎを防ぎ、国民を守っているんだね。 ・これまで学んできた国会、内閣、裁判所のしくみには、民意を反映させる工夫がすべてに入っているね。 ・ということは、民主政治を成り立たせるには民意が欠かせないのか。 ・私たちの動き次第なんだね。	・図に書き込みながら三権分立を理解できるようにする。 ・単元の学習問題を問い返し、書き込んだプリントとこれまでの授業を振り返って考えさせる。 【A、D-イ】	・書き込みプリント	11

4　生徒の実態と仮説

【生徒の実態】
1　一つの情報を鵜呑みにしがち。複数の資料を比較・関連させ、必要な情報を選ぶことができにくい。
2　複数の情報を自ら得ようとする意欲に差がある。

【手立て】
1―1 複数の考えに触れられるよう、同じ話題の複数紙の社説を読み比べる。
1―2 複数の情報を比較・関連して考え、対話しやすくなるよう、学習ｶｰﾄﾞ付きボードを使う。
2　複数の情報を得ることの意義を感じられるよう、マスメディアの役割を考える授業を行う。

【目指す生徒の姿】
1　複数の情報を比較・関連させて取捨選択し、根拠をもって自分の考えを改めたり深めたりすることができる。
2　複数の情報を得ることの大切さを理解し、マスメディアに触れようという意欲が高まる。

5　本時案

主　眼　国会や内閣の仕組みと課題について理解してきた生徒たちが、マスメディアは民主政治に対してどんな役割を果たしているかを考える場面で、新聞の社説を読み比べることを通して、マスメディアがあることで私たちは様々な情報や複数の考えに触れ、適切な民意を形成することができるというマスメディアの役割を理解することができる。

過程	学習活動	予想される生徒の反応	指導　評価	時	資料等
導入	学習問題：マスメディアは民主政治に対してどんな役割を果たしていると思う？ 1　問をたて予想する。	・情報を発信する役割。 ・他にもあるの？思いつかないや。 学習課題：実際にマスメディアに触れて、考えてみよう。	1　問いかけ、予想を板書する。	5	
展開	2　グループで社説を読み主張をまとめる。	・線を引きつつ記事を読むんだな。 ・線の所をまとめて書くんだな。 ・どんなことが書いてあるだろう？ ○北朝鮮とか防衛のことがたくさん書いてあるね。 ○憲法改正まで止まらずにどんどん行けって書いてあるよ。 ○つまり新内閣を応援しているね。 ◇憲法を改正したら戦争になるって書いてあるね。 ◇「暴走」って書いてあるよ。 ◇新内閣が嫌だって感じがするね。	2 ・3つのグループに分かれて記事を読むよう指示。 ・筆者の考えに線を引いて要点化し、ボードに挟んだプリントの表に記入させる。 ・手順はPPで表示。	17	2 ・ボード3（社説を一つとプリントを挟んでおく） ・ﾎﾜｲﾄﾎﾞｰﾄﾞ用ﾏｰｶｰ3ｾｯﾄ

	３　まとめた主張を持ち寄り、発表し、比較する。	☆アベノミクスを評価するって書いてあるよ。☆でも財政再建のメドが立たないって、文句かなぁ。 ☆賛成／反対というか、中立な感じがするね。 ・これは北朝鮮のことが書いてあったけど、こっちはあまり無いね。 ・「暴走」ってキツイね。なんでそんなこと言うの？ ・そっか、この内閣だったら９条が変わるかもしれないんだ。 ・戦争する国になるから反対ってこっちに書いてあったよ。 ・いやでも北朝鮮対策に自衛隊は欠かせないしなぁ。	３　ボードを持ち寄らせ、発表させる。それを受け、新内閣について意見交換をさせる。 【B】複数の社説を比較・関連させて、新内閣について考えることができる。	15	
まとめ	４　マスメディアの役割を考えてまとめる。	・考えが広がったように思う。 ・知らなかったことが知れたね。 ・マスメディアは政治について考える材料をくれるんだ。 <u>マスメディアには、情報だけでなく様々な考え方を発信し、私たちの視野を広げたり考えを深めたりする役割がある。</u>	４　社説を読み比べてどうだったか問う。その後、学習問題を再度問いかけ、ノートに記述させる。 【D-１】マスメディアの役割を理解している。	13	

６　実証の観点

①プリントやボードを使って同じ話題の複数の社説を読み比べたことは、複数の情報を比較・関連させて考えるのに有効だったか。

②マスメディアの役割について考える授業で、複数の社説を読み比べる活動を行ったことは、複数の情報を得ることの大切さを理解し、自ら情報を得ようと意欲づけるのに有効だったか。

７　授業の様子

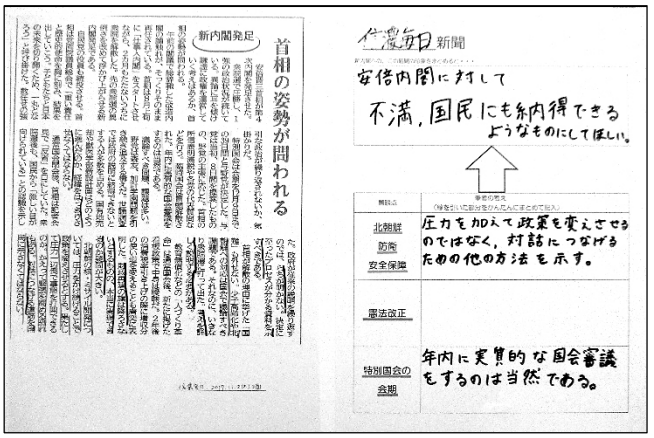
・どのグループも、まずは個人で記事を一読。「よくわからない」「難しい」と言いつつ、辞書を引いたり相談したりしながら解読。
・展開の２の場面で１７分を想定していたが、実際は２３分かかってまとめた。
・展開の３の場面でまとめたボードを並べて見て、「ぜんぜん（主張が）違う。」と驚く生徒たち。

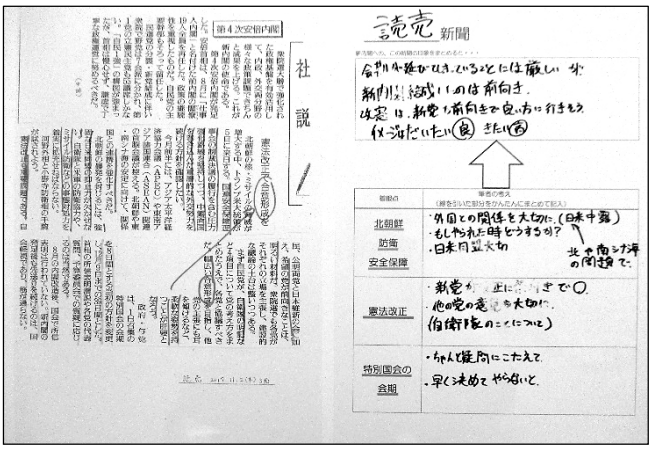
> 教師「自分に近い考えはある？」
> Ｓ生「うんうん。」（信毎・読売を指さす）
> 教師「逆もある？」
> Ｓ生（産経を指さしつつ）
> 「賛成しすぎってのはちょっと・・・。」

▼

複数の考えをふまえて、自分の考えを持てた。

・まとめの４で「記事を読んでみた今、学習問題を改めて考えてみるとどう？」と問いかけた。「考えが広がった。」「安倍さんに賛成なんてびっくりした。」といったつぶやきがあった。それをふまえて、各自でノートに記入。

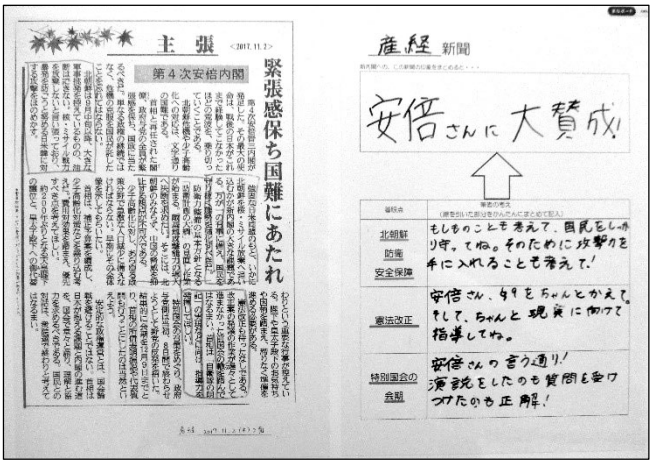




S 生の記述
　事実を伝えるだけでなく、筆者の考えや意見も入っていて、読み手に意見も提供している。読んでいる方が、その記事についてどう思うかの例や、思考を広げる役割がある。

↓

読んでいる方も事実だけでないから、共感したり反対したりできるから、読んでいておもしろい。



⇩

情報 ＝ 事実 ＋ 意見ということに気付いている。
全員が「思考を広げる」といったような、マスメディアの役割について記述することができた。

・授業後、新聞社のインタビューを受けた F 生は「新聞って、どれも同じことが書いてあると思っていた。」と話していた。さまざまな考え方があること、それが新聞に反映されていることに気付くことができたのもよかった。
・M 生は授業後のインタビューで「いろいろな新聞を読もうと思った。」と話していた。複数の情報を得ることの大切さを理解できたと考えられる。

８　授業後にいただいたご意見等

よかった点

・これまで、新聞タイムや3分トライアルなどで新聞を読む積み重ねをしてきた成果が出ていた。
・ボードを使ったこと、記事とプリントを並べたこと、着眼点を３つに絞ったこと、色を分けて線を引きながら読ませたことが、難しい記事を読み解く効果的な支援となっていた。
・発表をするとき、「新聞のここに書いてあるから…。」と根拠をもとに発表ができていた。

改善点が必要な点

・マスメディアの役割は理解できたが、民主政治とどうつながるのかが理解しきれていない。
・学習問題に至る流れを、３つの社説を読む必然性が生じる流れにすべき。そうすると、学習課題が生徒と確認しやすくなるので、展開での活動もスムーズになる。
・社説は難しいので、中高生新聞を活用することも考えてみたいが、主張が異なる記事はないか。

Ⅳ　研究の成果とさらに追求したい点

８か月経った今、改めて４月当初と比較してみると、生徒は確実に変化してきている。例えば、

・新聞は難しいことしか書いていないと考えていたのが、文化面や投書欄を見て楽しむようになった。
・昼休みに一面のトップ記事を見比べて「違いが露骨…。」とニヤニヤするようになった。
・語彙力や表現力の不足を自覚し、読書量を増やそうとする生徒が出てきた。
・辞書を引くことが楽しくなり、机の引き出しに辞書を入れておく生徒が出てきた。
・地理で調べものをする手段として「新聞を使いたい」と言うようになった。
・休み時間に「授業で習ったことは現実ではどうなんだろ…」と言いつつ新聞を読むようになった。
・政治、経済、国際情勢についての話で、生徒同士が休み時間に盛り上がるようになった。
・「先生、あの記事見ました？」「どう思います？」と話しかけられることが多くなった。

などである。社会科の研究テーマである「主権者の自覚」を持ち、「“よりよい社会”を主体的に語る」生徒の姿が見られるようになったことから、実践の方向は間違っていないと考えられる。

　さらに追求したいのは「難解な新聞記事をどう中学生に読ませたらいいのか」だ。予備知識が必要なことや独特な言い回しを使うことなどは、新聞を情報源として身近なものにする上で大きな壁になっている。中高生新聞を使うことも考えたが、週一回の発行で内容の厚みや幅がまるで違う。大人と同じものを読むということが、中学生のプライドをくすぐる効果もあると思う。教科を超えてアイデアをもらい、試行錯誤していきたい。

ちなみに、この８か月で職員にも変化があった。例えば、

- 新聞コーナーで立ち止まる職員が増えた。
- 面白い記事を見つけて生徒に話しかけてくれる職員が増えた。
- 授業で新聞を活用できないか考えてくれる職員も増えた。
- 新聞を欠かさず読んでいるベテラン職員が、毎日記事について自分の考えを話してくださる。
- それを聞いている周りの職員も、話に加わったり時事問題へ興味を持ったりする契機となった。
- 「こういう記事を読んだけど、どういうこと？」と質問を受けるようになった。
- 時事がわからないとき、背景や経緯を気軽にベテラン職員へ質問できるようになった。
- 世代や仕事を超えて話す機会が多くなり、職員室の空気が和やかになってきた気がする。

などである。また自分自身も、ほぼ毎日２時間かけて８紙を読みスクラップする生活を続けたことで、新聞を読む楽しさや新聞の有用性がようやくわかってきた。来年度はさらに、社会科以外の多くの教科で NIE が実践されるよう、今年度の成果を広めていきたい。

　今年度はとにかく思いついたことをどんどん実践してきた。これだけのことができたのは、向上心を持ってひたむきに取り組む子どもたちと、とことん寛容で労を厭わず協力してくださった先生方の存在があってこそ。NIE は周りの協力が不可欠だとよくわかった。来年度、寄せられたたくさんのご意見をもとに活動をブラッシュアップすることで、恩返しをしていきたい。